

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方針
○めざす学校像 ・明るく活気に満ちた学校 ・地域、保護者に信頼ある学校 ○めざす子ども像 ・仲良く、助け合う子ども ・たくましい心と体をもった子ども ・よく考え、学び合う子ども ○めざす教員像 ・人間性豊かで、協調性を備え、「チーム城南」を支える教員 ・教育専門職として指導力を身につけ、教育愛に燃える教員		確かな学力の定着と向上	・テーマ研究の推進や日々の授業改善による生き生きと学ぶ魅力ある授業づくり ・学力向上部を中心とした算数科における学力向上の取組の推進 ・ICTを活用した新しい学習スタイルの確立
		豊かな人間性・社会性の涵養	・一人ひとりの子どもの個性・特性理解をもとにした支援体制の確立 ・児童会を中心とした「あいさつ運動」や各委員会活動でのイベント活動など、自主的な取組の推進 ・不登校傾向児童の改善・復帰に向けたSCやSSW等と連携した組織的な支援
		信頼される学校づくりの推進	・保護者・地域への積極的な情報発信 ・家庭訪問等を通じた保護者との日常的な連携とPTAや地域との行事の融合 ・保護者アンケート実施によるニーズの把握と積極的な取組の推進
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
確かな学力の定着と向上を図る。	・「めあて」と「まとめ」を明確に位置付け、一人ひとりの子どもが見通しをもって生き生きと学ぶ魅力ある授業づくりを行う。	・「めあて」と「まとめ」の位置付けについては、約90%の教職員が「よくできた」または「できた」と回答している。 ・社会科や生活科、生活単元学習を中心として、書く、対話的活動に力を入れて取り組んだ。今年度は思考ツールを活用した思考表現の工夫や対話的な学習活動の設定に力を入れ研究授業を進めてきた。(保護者アンケート肯定的意見92%) ・「授業改善推進プラン」をもとに各学年で取り組んできたが、指導方法工夫改善教員や少人数指導教員との連携が十分ではない面があった。 ・ICT推進リーダーや主幹教諭の働きかけや研修により、1人1台端末の活用が進み、教材や資料の学年共有が図られた。	
	・自分の考えをもたせるための書く活動、考えを深めるための対話的な学習活動を効果的に位置づける。		
	・「学力調査」や学習定着度調査の結果分析による、学年が主体となった算数科における学力向上の取組を推進する。 ・ICT(学年教職員のGoogleクラスルーム等)を活用して教材や資料を学年で共有し、学習の質の向上を図る。		
豊かな人間性・社会性を身に付けさせる指導の充実を図る。	・一人ひとりの子どもの個性や特性を理解することにより、学年や校務分掌組織を活用した組織的な支援を行う。	・一人ひとりの子どもの個性や特性を十分理解して支援することを最重点において取り組んできた。学年会をはじめ、校内支援委員会や児童終礼で共通理解を図り、関係諸機関とも連携しながら子どもたちの支援を行ってきた。(同・肯定的意見90%) ・日常的に気持ちのよい挨拶をするよう指導している。児童会による「あいさつ運動」によって、児童の挨拶への意欲が高まってきた。全校に挨拶の輪を広げることができた。約90%の教職員が「よくできた」または「できた」と回答している。 ・担任、養護教諭、管理職が連携しながら、児童の欠席や遅刻の状況を毎日把握し、個に応じた支援を行ってきた。SCやSSW、関係諸機関とも日常的に連携し、組織的な支援を行ってきた。	
	・特別活動部と生徒指導部の連携により、児童会を中心とした「あいさつ運動」などの取組を計画的に推進する。		
	・不登校傾向児童の改善・復帰に向けてSCやSSW、関係諸機関等と連携した組織的な支援を行う。		
信頼される学校づくりの推進を図る。	・学校ホームページや各種たよりを活用することにより、学校としての考えや子どもの状況等を積極的に発信する。	・学校ホームページにより、児童の学校生活の様子を定期的にお知らせしている。また、学校からの情報発信もホームページやメール配信、各種たよりを通して積極的に行っている。(同・肯定的意見94%) ・案件や連絡内容に応じて、連絡帳、電話、学校面談、家庭訪問などの手段を選択し、保護者と日常的にコミュニケーションを図ることができるよう努めてきた。(同・肯定的意見86%) ・今年度内容項目を変更した保護者による学校評価アンケートを実施したことで、学校評価に生かすことができるようになった。	
	・家庭訪問や面談、電話連絡等をもとに保護者と日常的な連携を行うとともに、PTAや地域との行事の融合を図る。		
	・保護者アンケートを実施することにより、ニーズを把握しながら取組の推進に生かしていく。		
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			

○子どもの教育において、机上の学習とは違う経験が重要だと新聞等で読んだことがある。家庭内でそれをするのは難しいが、学校では様々な行事を取り入れて体験的な学習をしてもらっているのは有難いことである。

○子どもたちの学力の二極化と保護者の子どもに対する教育への関心の二極化に多少関連性があると感じる。とても難しい問題だと感じる。

○保護者の知識がないために、否定的な意見が多くなるのではないかと思う。なるべく多くの情報を保護者に提供していくことが需要だと考えている。

○学校では積極的に挨拶する子どもが育ってきているが、地域の中では、知らない人にあいさつすることを躊躇っている子どもが多い。地域の人が挨拶を返してくれなくてもめげずに挨拶を続けてほしいものである。

○学校での取組のよさがよく分かった。学校と地域が連携して子どもがよく育っていると感じる。全市的に見てもモデルになるような学校だと感じる。もっと学校評価を高くしてもいいのではないかと思う。